

入門助成

1年目

実践

## 上田市:農林業とまちの連携による エネルギーシフト地方都市のモデル作り ～地域共同節電所、バイオマス暖房、 ソーラーシェアリング～



ソーラーシェアリングサミットに多数の参加

まちで一番古い冷蔵庫  
コンテストへの参加者数 **104人**

新規ソーラーシェアリング  
太陽光発電所の申請開始件数 **10件**

活動の全体目標に  
対する達成度 **94%**

### 課題

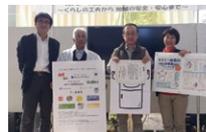
省エネ機器の導入や断熱改修、また暖房燃料の木質利用、農地を利用した営農型太陽光発電のポテンシャルがある土地だが、初期費用の高さもあり、あまり進んでいない。

### 目標

メリットを可視化しアピールするため、大々的なコンクールやシンポジウム、先進地ツアーを開催する。共同出資による節電改修、木質バイオマス熱利用地域協議会の開始、営農型太陽光発電所の新規事業を広める。

### 活動内容

- 地域での関心を高めるため、一般の市民が参加しやすくなるような「まちで一番古い冷蔵庫コンクール」を開催。古い冷蔵庫と新型省エネ冷蔵庫との電気使用量比較を行った。
- 「木質バイオマスシンポジウム」に地域自治体や主な林業／暖房器具関係者25団体を集め、地域ネットワークを形成した。● 「ソーラーシェアリングサミットin上田市」に計90名の参加を得、地元主要3紙やメディアに大きく取り上げられた。



まちで一番古い冷蔵庫  
コンテスト授賞式

### 達成できなかったこと

市民出資を使い照明や空調を省エネ機器に置き換える「節電所」は、対象企業が自己資金で行う方が投資効率が良いとの回答が多く、まだ具体化できていない。

### 今後の展望

自己資金を活用した節電も含め啓発していく。木質バイオマス熱利用は地域計画を推し進め実現していく。

## 成果と工夫した ポイント



### 成果

- ・45軒以上の地元商店や企業より、省エネ化の現状と課題を知ることができた。
- ・25団体の林業と木質バイオ利用の専門家と上田市での展開の具体案を共有できた。
- ・全参加者の営農型発電への理解が前向きに変わった。

### 工夫

地域内で自主的な活動がいくつも生まれてくるように、メリットをわかりやすく伝えた。